

1977年 大会記録

国際

◇ワールドカップ=フリースタイル (3月26~27日、米国・トレド)

3位 (1勝2敗)

1回戦 日本● [1-9] ○米国

2回戦 日本● [3-7] ○ソ連

3回戦 日本○ [6-4] ●カナダ

《個人成績》▼48kg級 藤沢信雄 (大東大) = 3位、▼52kg級 清水清人 (日体大) = 優勝、▼57kg級 山路明 (国士舘大) = 3位、▼62kg級 堀井健一 (日体大) = 2位、▼68kg級 高橋恒弘 (専大) = 3位、▼74kg級 小笠原寛 (八戸工大) = 3位、▼82kg級 太田章 (早大) = 3位、▼90kg級 清水一夫 (大東大) = 4位、▼100kg級 谷津嘉章 (日大) = 4位、▼100kg以上級 宮安晋 (国士舘大) = 4位

◇全米選手権=フリースタイル (4月7~9日、米国・エイムズ)

▼48kg級 藤沢信雄 (大東大)、▼52kg級 清水清人 (日体大) = 優勝、▼57kg級 山路明 (国士舘大) = 優勝、▼62kg級 堀井健一 (日体大)、▼68kg級 高橋恒弘 (専大)、▼74kg級 小笠原寛 (八戸工大)、▼82kg級 太田章 (早大)、▼90kg級 清水一夫 (大東大)、▼100kg級 谷津嘉章 (日大) = 2位、▼100kg以上級 宮安晋 (国士舘大)

◇世界ジュニア選手権 (7月11~16日、米国・ラスベガス)

《フリースタイル》▼48kg級 石川利明 (日大) = 3位、▼52kg級 河村稿一郎 (専大) = 三失、▼57kg級 富山英明 (日大) = 6位、▼62kg級 海老沢正道 (日体大) = 5位、▼68kg級 高橋恒弘 (専大) = 四失、▼74kg級 保坂竹道 (国士舘大) = 二失、▼82kg級 太田章 (早大) = 2位、▼90kg級 山本博 (日大) = 二失、▼100kg級 木下敏行 (大東大) = 6位、▼100kg以上級 山本邦寿 (日体大) = 5位

《グレコローマン》▼48kg級 山岸隆 (法大) = 3位、▼52kg級 斎藤秀雄 (国士舘大) = 三失、▼57kg級 長野広之 (日体大) = 6位、▼62kg級 伊藤正男 (専大) = 5位、▼68kg級 木許勝弘 (日体大) = 三失、▼74kg級 松本啓志 (日大) = 三失、▼82kg級 茅原功 (専大) = 二失、▼90kg級 相沢伸彦 (国士舘大) = 三失、▼100kg級 小松浩 (明大) = 6位、▼100kg以上級 = 出場なし

◇ユニバーシアード（8月25～27日、ブルガリア・ソフィア）

《フリースタイル》▼48kg級 藤沢信雄（大東大職）＝優勝、▼52kg級 清水清人（日体大）＝優勝、▼57kg級 佐藤（専大）＝2位、▼62kg級 多賀恒雄（明大）＝2位、▼68kg級 小泉（国士館大）＝6位、▼74kg級 川田勝也（日大）＝4位、

◇世界選手権＝グレコローマン（10月14～17日、スウェーデン・ゴデボルグ）

▼48kg級 森脇由晃（和歌山県教委）＝二失、▼52kg級 宇野勝彦（三重・桑名工高教）三失、▼57kg級 長内清一（青森・八戸商高教）＝二失、▼62kg級 西依道雄（日体大）＝二失、▼68kg級 南敏文（日体大）＝二失、▼74kg級 鈴木寛（法大）＝二失、▼82kg級 長谷川正治（近藤組）＝三失、▼90kg級 藤田芳弘（和歌山県教委）＝三失、▼100kg級 吉田幸雄（八戸市教委）＝二失、▼100kg以上級 松永清志（日体大意）＝二失

◇世界選手権＝フリースタイル（10月21～23日、スイス・ローザンヌ）

▼48kg級 藤沢信雄（大東大）＝2位、▼52kg級 高田裕司（日体大）＝優勝、▼57kg級 佐々木禎（静岡・稲取高教）＝優勝、▼62kg級 堀井健一（国士館大）＝二棄、▼68kg級 平松義高（自衛隊）＝二失、▼74kg級 藤田末広（自衛隊）＝二失、▼82kg級 鈴木光（日大）＝三失、▼90kg級 清水一夫（岡山・岡山日大高教）＝二失、▼100kg級 谷津嘉章（日大）＝二失、▼100kg以上級 森康哲（自衛隊）＝二失

国内

◇全国高校選抜大会（4月5～6日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 青森・八戸工、[2] 秋田・五城目、[3] 新潟・巻農、富山・高岡商

《個人戦優勝者》▼48kg級 湊（秋田・五城目）、▼52kg級 上野（青森・八戸工）、▼56kg級 大淵（秋田・秋田商）、▼60kg級 富田（茨城・土浦日大）、▼65kg級 山口敏博（山形・上山農）、▼70kg級 小林清一（山形・上山農）、▼75kg級 板橋（秋田・秋田経法大付）、▼75kg以上級 水越（富山・高岡商）

◇東日本学生リーグ戦（5月7～9・31日、東京・青少年総合センター、駒沢体育館）

《順位》[1] 日大（9年ぶり3度目）、[2] 専大
（A組）[1] 日大、[2] 日体大、[3] 明大、[4] 大東大、[5] 東海大、[6] 拓大
（B組）[1] 専大、[2] 国士大、[3] 中大、[4] 東洋大、[5] 八戸工大、[6]

東農大

◇全日本社会人選手権（5月13～14日、東京・青少年スポーツセンター）

《団体戦・官公庁対抗優勝》自衛隊A、《同・実業団対抗優勝》三信電気、《同・クラブ対抗優勝》八戸クラブ、《同・三部対抗優勝》八戸クラブ

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 高村勝義（三重県庁）、▼52kg級 工藤章（三信電気）、▼57kg級 片柳三男（自衛隊）、▼62kg級 藤田義郎（八戸ク）、▼68kg級 平松義高（自衛隊）、▼74kg級 藤田末広（茨城自衛隊）、▼82kg級 伊藤勝春（丸藤シートパイル）、▼90kg級 松本信広（警視庁）、▼100kg級 三戸豊治（警視庁）、▼100kg以上級 森康哲（自衛隊）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 高村勝義（三重県庁）、▼52kg級 宇野勝彦（三重・桑名工高教）、▼57kg級 阿佐雄二（自衛隊）、▼62kg級 乙守豊（アイシン精機）、▼68kg級 平井一十司（自衛隊）、▼74kg級 野口次男（自衛隊）、▼82kg級 伊沢厚（警視庁）、▼90kg級 松本信広（警視庁）、▼100kg級＝参加なし、▼100kg以上級 森康哲（自衛隊）

◇西日本学生選手権＝フリースタイル（5月28～29日、大阪・桃山学院大）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 徳永俊太（同志社大）、▼52kg級 深瀬和昭（同志社大）、▼57kg級 時田健治郎（近大）、▼62kg級 中岡正作（近大）、▼68kg級 高田文孝（近大）、▼74kg級 井戸量太（近大）、▼82kg級 高橋勝人（近大）、▼82kg以上級 堀之内大介（同志社大）

◇全日本選手権（6月3～5日、東京・東京体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 藤沢信雄（大東大職）、▼52kg級 高田裕司（日体大研）、▼57kg級 佐々木禎（静岡・稲取高教）、▼62kg級 堀井健一（国士大教）、▼68kg級 平松義高（自衛隊）、▼74kg級 藤田末広（自衛隊）、▼82kg級 鈴木光（日大）、▼90kg級 清水一夫（岡山・岡山日大高教）、▼100kg級 谷津嘉章（日大）、▼100kg以上級 森康哲（自衛隊）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 森脇由晃（和歌山県教委）、▼52kg級 宇野勝彦（三重・桑名工高教）、▼57kg級 長内清一（青森・八戸商高教）、▼62kg級 西依道雄（日体大）、▼68kg級 南敏文（日体大）、▼74kg級 鈴木寛（法大）、▼82kg級 長谷川正治（近藤建設）、▼90kg級 藤田芳弘（和歌山・和歌山北高教）、▼100kg級 吉田幸雄（八戸体育館）、▼100kg以上級 松永清志（日体大）

◇世界ジュニア選手権代表選考会（6月8～10日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 石川利明（日大）、▼52kg級 河村稿一郎（専大）、▼57kg級 富山英明（日大）、▼62kg級 海老沢正道（日体大）、▼68kg級 高橋恒弘（専大）、▼74kg級 保坂竹道（国士舘大）、▼82kg級 太田章（早大）、▼90kg級 山本博（日大）、▼100kg級 木下敏行（大東大）、▼100kg以上級 山本邦寿（日体大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 山岸隆（法大）、▼52kg級 斎藤秀雄（国士舘大）、▼57kg級 長野広之（日体大）、▼62kg級 伊藤正男（専大）、▼68kg級 木許勝弘（日体大）、▼74kg級 松本啓志（日大）、▼82kg級 茅原功（専大）、▼90kg級 相沢伸彦（国士舘大）、▼100kg級 小松浩（明大）、▼100kg以上級＝出場なし

◇東日本学生春季新人戦（6月13～16日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 石川利明（日大）、▼52kg級 小林利典（大東大）、▼57kg級 富山英明（日大）、▼62kg級 舘岡正（国士舘大）、▼68kg級 加藤巖（国士舘大）、▼74kg級 田谷久男（東洋大）、▼82kg級 太田章（早大）、▼90kg級 山本博（日大）、▼90kg級以上 宮安晋（国士舘大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 工藤武之（東農大）、▼52kg級 滝尻善英（中大）、▼57kg級 富山英明（日大）、▼62kg級 舘岡正（国士舘大）、▼68kg級 山口勝之（国士舘大）、▼74kg級 名雪正紀（中大）、▼82kg級 西塚賢一（明大）、▼90kg級 山本博（日大）、▼90kg級以上 宮安晋（国士舘大）

◇西日本学生春季リーグ戦（6月24～26日、大阪・大阪府立体育会館）

《順位》[1] 近大（2季連続5度目）、[2] 福岡大、[3] 同志社大、[4] 大体大、[5] 桃山学院大

◇インターハイ（8月2～5日、山口・徳山市体育館）

《学校対抗戦》[1] 栃木・足利工大付、[2] 青森・光星学院、[3] 山口・桜ヶ丘、埼玉・埼玉栄

《個人戦優勝者》▼48kg級 森永哲史（鹿児島・鹿児島商工）、▼52kg級 石井勉（秋田・五城目）、▼56kg級 横山勝正（青森・光星学院）、▼60kg級 栄和人（鹿児島・鹿児島商工）、▼65kg級 山口敏博（山形・上山農）、▼70kg級 野崎由明（青森・光星学院）、▼75kg級 小川充（鹿児島・鹿児島商工）、▼75kg以上級 茂木修（山形・

山形商)

◇全日本学生選手権 (8月31日～9月3日、大阪・東淀川体育館)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 石川利明 (日大)、▼52kg級 碓柱輔 (国士舘大)、▼57kg級 富山英明 (日大)、▼62kg級 藤田良穂 (中大)、▼68kg級 高橋恒弘 (専大)、▼74kg級 海沼邦彦 (八戸工大)、▼82kg級 太田章 (早大)、▼90kg級 山本博 (日大)、▼90kg級以上 谷津嘉章 (日大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 山岸隆 (法大)、▼52kg級 朝倉利夫 (国士舘大)、▼57kg級 柏木究 (国士舘大)、▼62kg級 藤田隆康 (日体大)、▼68kg級 南敏文 (日体大)、▼74kg級 鈴木寛 (法大)、▼82kg級 清水輝雄 (専大)、▼90kg級 藤森安一 (日体大)、▼90kg級以上 松永清志 (日体大)

◇西日本学生秋季新人戦 (9月11日、大阪・桃山学院大)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 山下裕巳 (京都産業大)、▼52kg級 米田一彦 (関大)、▼57kg級 山下孝明 (近大)、▼62kg級 重松信一 (大体大)、▼68kg級 山元一彦 (近大)、▼74kg級 前田 (同志社大)、▼82kg級 工藤 (神戸大)、▼82kg以上級 吉田 (中京大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 山下裕巳 (京都産業大)、▼52kg級 上田和弘 (中京第)、▼57kg級 山下孝明 (近大)、▼62kg級 重松信一 (大体大)、▼68kg級 山元一彦 (近大)、▼74kg級 河村鉄也 (近大)、▼82kg級 横山博行 (関大)、▼82kg以上級 吉田溶造 (中京大)

◇国体 (10月3～6日、青森・八戸工大)

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 朝倉利夫 (鹿児島・国士舘大)、▼52kg級 刈場勇光 (青森・自衛隊)、▼57kg級 富山英明 (茨城・日大)、▼62kg級 多賀恒雄 (新潟・日大)、▼68kg級 小泉清一 (青森・八戸工大)、▼74kg級 海沼邦彦 (青森・八戸工大)、▼82kg級 茂木優 (秋田・秋田商)、▼90kg級 鈴木光 (茨城・日大)、▼100kg級 吉田幸雄 (青森・八戸市体育館)、▼100kg以上級 谷津嘉章 (栃木・日大)

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 工藤武之 (群馬・東農大)、▼52kg級 宇野勝彦 (三重・桑名工高教)、▼57kg級 長内清一 (青森・八戸商高教)、▼62kg級 田上高 (鹿児島・伊佐農林高)、▼68kg級 南敏文 (徳島・日体大)、▼74kg級 長島偉之 (栃木・足利工高教)、▼82kg級 清水輝夫 (群馬・専大)、▼90kg級 藤田芳弘 (和歌山・和歌山県教委)、▼100kg級 石渡真 (千葉・浦安高教)、▼100kg以上級 上野

英任（青森・専大）

《少年フリースタイル優勝者》▼48kg級 山田正則（栃木・足利工大付）、▼52kg級 元沢正樹（栃木・足利工大付）、▼56kg級 横山勝正（青森・光星学院）、▼60kg級 栄和人（鹿児島・鹿児島商工）、▼65kg級 山口敏博（山形・上山農）、▼70kg級 野崎由明（青森・光星学院）、▼75kg級 小川充（鹿児島・鹿児島商工）、▼81kg級 富田栄作（新潟・北越商）、▼87kg級 茂木修（山形・山形商）、▼87kg以上級 宮内輝和（栃木・足利工大付）

《少年グレコローマン優勝者》▼48kg級 橋本伸幸（三重・宇治山田）、▼52kg級 小林純一（埼玉・埼玉栄）、▼56kg級 桜井弘記（宮城・東北電子工）、▼60kg級 中島光正（・松井田）、▼65kg級 渡部徳一郎（福島・田島）、▼70kg級 伊藤浩己（岐阜・大垣工）、▼75kg級 宮本昭宏（山口・柳井工）、▼81kg級 杉浦宏（熊本・鎮西）、▼87kg級 伊藤力（長崎・島原）、▼87kg以上級 安藤正哉（岐阜・岐南工）

◇西日本学生選手権＝グレコローマン（10月16日、）

《優勝者》▼48kg級 徳永俊太（同志社大）、▼52kg級 岡井正憲（近大）、▼57kg級 元山淳（近大）、▼62kg級 葭谷内和彦（桃山学院大）、▼68kg級 中谷安典（同志社大）、▼74kg級 井戸量太（近大）、▼82kg級 横山博行（関大）、▼82kg以上級 堀之内大介（同志社大）

◇全日本学生王座決定戦（10月16～17日、東京・青少年総合センター）＝決勝成績

国士舘大○〔5－4〕●日大

※国士舘大は2年ぶり2度目の優勝

◇東日本学生秋季新人戦（10月17～20日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 佐々木文和（日体大）、▼52kg級 池田均（国士舘大）、▼57kg級 中井孝次（中大）、▼62kg級 富山英明（日大）、▼68kg級 野中正俊（中大）、▼74kg級 石井恵次（日大）、▼82kg級 茅原功（専大）、▼90kg級 太田章（早大）、▼90kg級以上 山本博（日大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 佐々木文和（日体大）、▼52kg級 斉藤英雄（国士舘大）、▼57kg級 五十嵐直（日体大）、▼62kg級 伊藤正男（専大）、▼68kg級 渡部友幸（日体大）、▼74kg級 池乗貞明（法大）、▼82kg級 茅原功（専大）、▼90kg級 大山隆（日体大）、▼90kg級以上 山本博（日大）

◇東日本学生グレコローマン選手権（ ）=決勝成績

※

◇全日本大学選手権（11月8～9日、東京・東京体育館）

《優勝者》▼48kg級 朝倉利夫（国士舘大）、▼52kg級 清水清人（日体大）、▼57kg級 富山英明（日大）、▼62kg級 多賀恒雄（明大）、▼68kg級 南正昭（日体大）、▼74kg級 川田勝也（日大）、▼84kg級 太田章（早大）、▼90kg級 藤森安一（日体大）、▼90kg以上級 谷津嘉章（日大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（2年ぶり2度目）、[2] 日大、[3] 国士舘大

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月25～27日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 近大（3季連続6度目）、[2] 福岡大、[3] 同志社大、[4] 大体大、[5] 徳山大、[6] 桃山学院大